

肝炎の正しい知識の普及について

- 新たな感染防止・残された課題・今後の対策 -

東京大学医科学研究所先端医療研究センター
(附属病院感染免疫内科)

四 柳 宏

研究班の目的

- 21世紀の国民病とも呼ばれたウイルス肝炎に対して我が国では国を挙げての対策がとられてきました。その内容は肝炎対策基本法に基づくものです。
- 肝炎対策基本法には肝炎対策基本指針が定められており、この中の一つに“肝炎に関する啓発及び知識の普及”並びに”肝炎患者等の人権の尊重”に関する事項が挙げられています。
- この研究班は“肝炎に関する啓発及び知識の普及”を目標にしています。同時に肝炎対策基本指針の中に定められている“肝炎の予防のための施策に関する事項”に関する研究を行うことも目的にしています。
- 研究テーマは次の3つが柱となっています。
 - 一般生活者・保育施設勤務者・医療従事者を対象としたe-learning systemの構築
 - HBワクチンの接種状況・感染状況に関する調査
 - 急性肝炎の発生状況にする正確な状況把握の検討

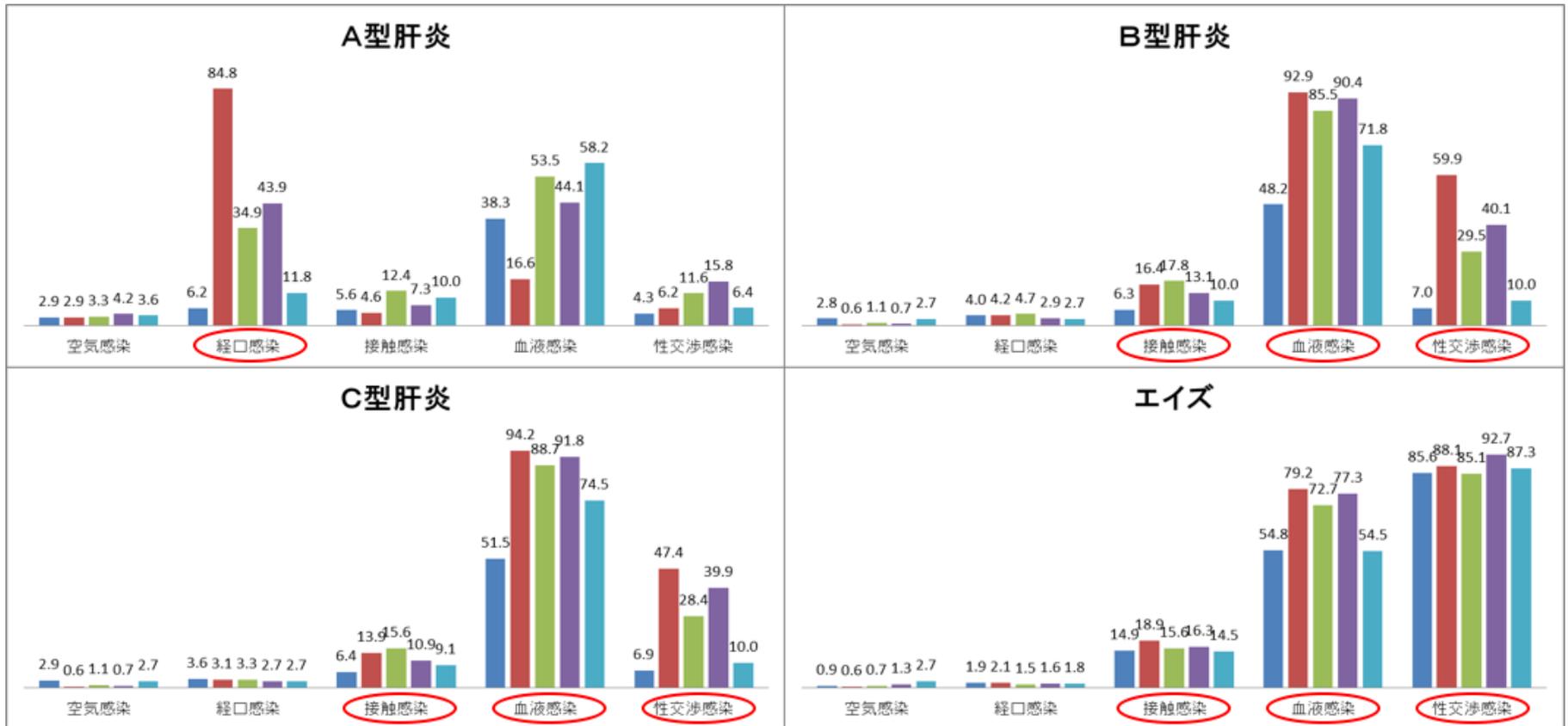


研究班の目的

- 21世紀の国民病とも呼ばれたウイルス肝炎に対して我が国では国を挙げての対策がとられてきました。その内容は肝炎対策基本法に基づくものです。
- 肝炎対策基本法には肝炎対策基本指針が定められており、この中の一つに“肝炎に関する啓発及び知識の普及”並びに“肝炎患者等の人権の尊重”に関する事項が挙げられています。
- この研究班は“肝炎に関する啓発及び知識の普及”を目標にしています。同時に肝炎対策基本指針の中に定められている“肝炎の予防のための施策に関する事項”に関する研究を行うことも目的にしています。
- 研究テーマは次の3つが柱となっています。
 - 一般生活者・保育施設勤務者・医療従事者を対象としたe-learning systemの構築
 - HBワクチンの接種状況・感染状況に関する調査
 - 急性肝炎の発生状況にする正確な状況把握の検討



感染経路に関する知識



2014年度 厚生労働科学研究“集団生活の場における肝炎予防ガイドラインの作成のための研究”班報告書より

注1：分母は、全回答者数（1315人）

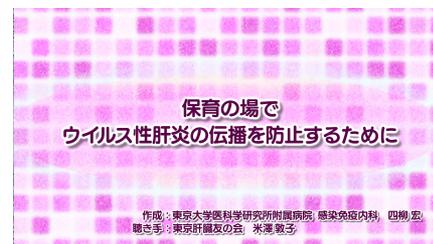
注2：経路の○印は、正経路

- 一般生活者の多くはウイルス肝炎の感染経路が正しく理解できていない。
- 医療従事者であってもB型肝炎・C型肝炎の感染経路に対する理解は不十分である。



一般生活者・保育施設勤務者・医療従事者を対象とした e-learning systemの構築

- 肝炎ウイルスの基本、感染経路を知ってもらうためのe-learning（すべての人を対象とする）
- 一般生活者に対し、日常生活の行為の中で肝炎ウイルスに感染する可能性の高い行為・低い行為を知って頂き適切に対応して頂くためのe-learning（医療施設勤務者・肝炎コーディネーターなども対象とする）
- 保育施設勤務者に対して適切な感染対策を学んで頂くためのe-learning
- 高齢者施設勤務者に対して適切な感染対策を学んで頂くためのe-learning



肝炎ウイルス (B型肝炎ウイルス・C型肝炎ウイルス) に感染する可能性のある行為・ない行為

肝炎ウイルスに感染する可能性の

ある行為

血液・体液が体内に入る可能性の高い行為



- 傷や穴は絆創膏やガーゼで覆い接触感染の危険性を減らしましょう
- 医療器具やかみそり、歯ブラシ、ピアッサーなどを他人と共有することは避けましょう

家族内・パートナー間での濃厚な接触
血液が付着している可能性のある物の共有

肝炎ウイルスに感染する可能性の

ない行為

血液・体液が体内に入る可能性の低い行為



清潔な(血液や体液がついていない)場所への接触:共有も大丈夫!



出典：厚生労働省 集団生活の場における肝炎ウイルス感染予防ガイドラインの作成のための研究班
日常生活の場でウイルス性肝炎の伝播を防止するためのガイドライン

- ハイリスク行為は家族内・パートナー間での濃厚接触であると簡潔に述べた。
- 他のハイリスク行為として血液が付着している可能性のあるものの共有をあげた。

日常生活の場でB型、C型肝炎ウイルスはうつりにくい

肝炎ウイルスに感染する可能性のある行為

血液・体液が体内に入る可能性の高い行為

肝炎にかかった母親から

傷や穴から

風呂やトイレ
食器の共有等で
肝炎ウイルスが
伝播することはまず無い

● 医療器具やかみそり、歯ブラシ、ピアッサーなどを他人と共有することは避けましょう

家族内・パートナー間での濃厚な接触
血液が付着している可能性のある物の共有

肝炎ウイルスに感染する可能性のない行為

血液・体液が体内に入る可能性の低い行為

握手

会食

会話

清潔な(血液や体液がついていない)場所への接触:共有も大丈夫!

椅子・ドアノブ・床

公衆トイレ

筆記用具

食器

シャワー・浴室

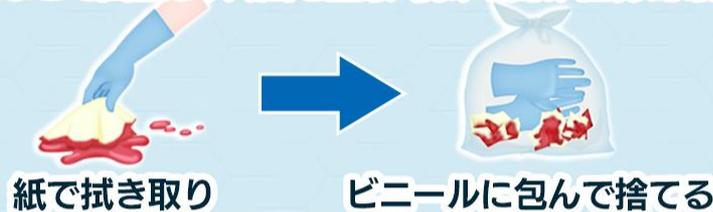
出典：厚生労働省 集団生活の場における肝炎ウイルス感染予防ガイドラインの作成のための研究班
日常生活の場でウイルス性肝炎の伝播を防止するためのガイドライン
高齢者施設における肝炎対策のガイドライン

- 日常生活で肝炎ウイルスの伝播は極めて起こりにくいことをはっきり述べた。
- ウイルスキャリアに対する偏見・差別の撤廃に役立てることを意識した。

血液や体液が付着した場所は拭き取った後に薬物消毒

血液や体液の処理法

けが、鼻血、生理などで出血し、周囲を血液（尿、精液、膣分泌液）で付着したら



汚れた箇所は下記のいずれかで薬物消毒

1) 塩素系消毒剤:原液の次亜塩素剤

(商品名:クロラックス、ピューラックス、ピューラックス10、ハイター、ミルトン)を有効塩素濃度 1,000ppm(0.1%)になるよう水で希釈し(6%クロラックス、ピューラックスの場合には、50~60倍に水で希釈)、1時間以上浸漬。

2) 非塩素系消毒剤:2%グルタルル・アルデヒド液(商品名:ステリハイド)に30分~1時間浸漬。

- ウイルスキャリアの方、同居する家族に対する啓発も兼ねて作成した。
- 肝炎ウイルス以外のウイルスに適応可能な“血液エチケット”でもある。

B型肝炎ウイルスキャリアの家族はワクチンの投与が望ましい



B型肝炎ワクチンは3回投与



- ウイルスに対する免疫を獲得した場合15年は効果が持続
- 投与後に免疫を獲得したか血液検査で確認

出典：厚生労働省 集団生活の場における肝炎ウイルス感染予防ガイドラインの作成のための研究班
日常生活の場でウイルス性肝炎の伝播を防止するためのガイドライン

- HBVキャリアの同居する家族に対してワクチンの接種をお勧めした。

血液を扱う可能性のある職種はワクチンの接種が望ましい

血液を扱ったり触れたりする可能性のある職種

- 医療従事者（医師、看護師、検査技師等）
- 消防士、救急救命士
- 警察官

など

出典：厚生労働省 集団生活の場における肝炎ウイルス感染予防ガイドラインの作成のための研究班
日常生活の場でウイルス性肝炎の伝播を防止するためのガイドライン

- HBVキャリアの血液・体液に触れる可能性のある職業に従事する人に対してワクチンの接種をお勧めした。

保育の場で ウイルス性肝炎の伝播を防止するために

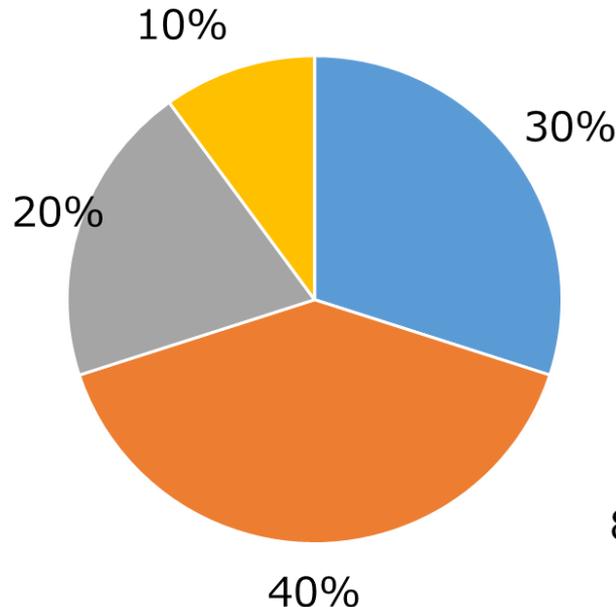
作成：東京大学医科学研究所附属病院 感染免疫内科 四柳 宏
聴き手：東京肝臓友の会 米澤 敦子

保育施設勤務者：保育の場の現状

保育施設

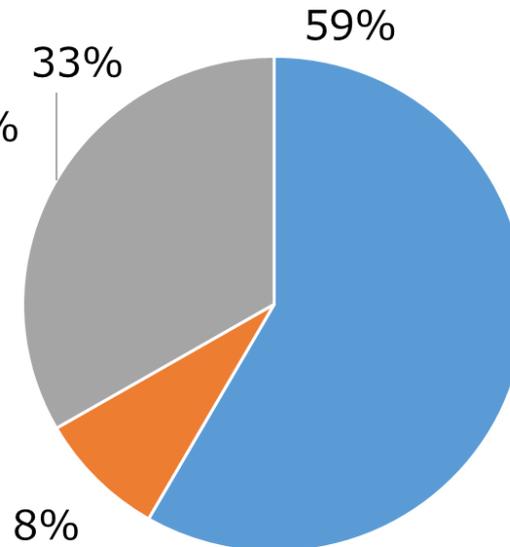
園児の傷の手当をするときに

手袋をするか



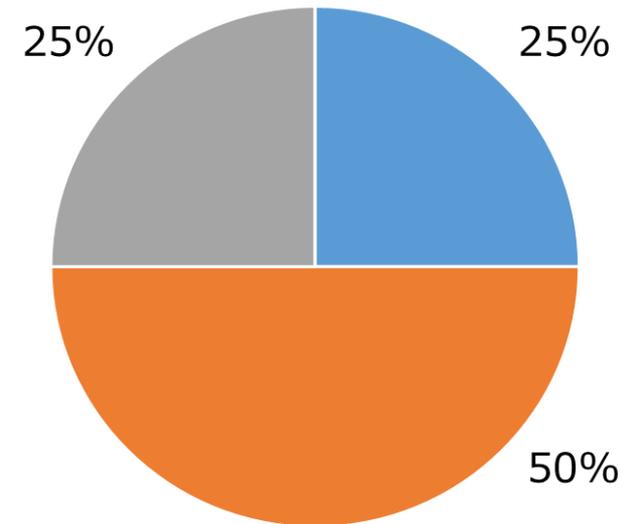
■ 必ずする ■ だいたいする
■ たまにする ■ しない

ワクチンの接種状況を聞くか



■ 必ず聞く ■ だいたい聞く
■ わからない

自身のB型ワクチン
接種状況



■ 接種している ■ 接種していない
■ わからない

n=20 (大阪府の保育施設勤務者)

2020年度 研究班の調査より

- 保育施設に勤務する人は、不特定多数の人の血液・体液に触れるにも関わらず、感染予防は不十分である。

保育施設の職員はB型肝炎ワクチンの接種が望ましい



- 感染予防機能を獲得した場合
15年は効果が持続
- 投与後に免疫を獲得したか
血液検査で確認

出典：厚生労働省 集団生活の場における肝炎ウイルス感染予防ガイドラインの作成のための研究班
日常生活の場でウイルス性肝炎の伝播を防止するためのガイドライン
高齢者施設における肝炎対策のガイドライン

- 保育に従事する人に対してワクチンの接種をお勧めした（保育所における感染症対策ガイドライン（厚生労働省2018年3月）でも勧められている）。

唾液のつくものの扱い方(1)

- 唾液の中には肝炎ウイルスだけではなく、口の中にある細菌をはじめいろいろな微生物が入っている可能性があります。
- したがって**哺乳瓶、乳首、歯ブラシ、コップ**などは個人専用にするのが原則です。
- **おしゃぶり**などもなるべく共有しないことが望まれます。
- 唾液のついた**おもちゃ**などは水洗いしてよく乾かすことが基本です。
- 哺乳瓶、乳首、歯ブラシ、コップ同様園児の使う**寝具、パジャマ、タオル**にも唾液がつきます。
- 園児の使った寝具、パジャマ、タオルは使い回しをせず、洗濯後よく乾かしてから使います。

- 現場で問題になる“ウイルスの含まれている唾液が付いたものの扱い”を明記した。

高齢者施設で ウイルス性肝炎の伝播を防止するために

作成：東京大学医科学研究所附属病院 感染免疫内科 四柳 宏
聴き手：東京肝臓友の会 米澤 敦子

感染者(入所者,職員)の血液・体液が非感染者(入所者,職員)の皮膚や粘膜の傷から侵入した場合に感染が起こりうる

肝炎ウイルスに感染する可能性のある行為

血液・体液が体内に入る可能性の高い行為

肝炎にかかった母親から母子感染

傷や穴から

手術などの医療処置 針治療

血液・体液を介して

粘膜から

性交渉

脱毛 入れ墨

ピアス ひげ剃り

- 傷や穴は絆創膏やガーゼで覆い接触感染の危険性を減らしましょう
- 医療器具やかみそり、歯ブラシ、ピアッサーなどを他人と共有することは避けましょう

家族内・パートナー間での濃厚な接触血液が付着している可能性のある物の共有

肝炎ウイルスに感染する可能性の

傷や穴は絆創膏やガーゼで覆い接触感染の危険性を減らしましょう。

医療器具やかみそり、歯ブラシなどを他人と共有することは避けましょう。

鼻血や傷の処置、オムツ交換等を行う際には、可能であれば使い捨て手袋を装着しましょう。

出典：厚生労働省 集団生活の場における肝炎ウイルス感染予防ガイドラインの作成のための研究班
日常生活の場でウイルス性肝炎の伝播を防止するためのガイドライン
高齢者施設における肝炎対策のガイドライン

- 高齢者施設に勤務する人に対して、傷・血液・体液の扱い（標準予防策）をわかりやすく示した。

肝炎キャリアの職員も高齢者施設での仕事は可能



血液や体液の処理法

けが、鼻血、生理などで出血し、周囲を血液（尿、精液、膣分泌液）で汚したら



紙で拭き取り



ビニールに包んで捨てる

入所者の皮膚に傷や皮膚炎などがある場合には、入所者への感染を防ぐため自身の血液・体液が触れないよう注意を払う。

出典：厚生労働省 集団生活の場における肝炎ウイルス感染予防ガイドラインの作成のための研究班
日常生活の場でウイルス性肝炎の伝播を防止するためのガイドライン
高齢者施設における肝炎対策のガイドライン

- 高齢者施設に勤務する人自身がキャリアであっても施設での就労に問題はないことを明記した。

今後の展望

- 様々な対象に対する啓発の展開
 - ✓ 一般生活者向けのもの：一般生活者に加え、医療関係者・肝炎医療コーディネーター・患者さんご家族などへの展開
 - ✓ 保育施設者向けのもの：保育施設に加え小児の集まる施設（児童館など）への展開
 - ✓ 高齢者施設向けのもの：高齢者施設のみならず施設全般への展開
- 啓発効果の検証
 - ✓ e-learning前後での認識・理解度の変化を調査する